

心温まる介護をさまざまな形で支援する

株式会社センチュリークリエイティブ



あみーご倶楽部四日市日永



介護とは無縁の スタートライン

人がより、人らしく生きること追求した介護を行う株式会社
センチュリークリエイティブ。
これまでに培ってきたノウハウで、地域の介護業界を牽引する。

株式会社センチュリークリエイティブは、湯浅社長の父が創業した水道設備会社が前身となる。父親が病に倒れ、急遽25歳の若さで湯浅社長が会社を引き継ぐこととなった。当時、水道事業の傍ら「日本茶研」という社名で、主に葬祭事業者向けの贈答

品卸を行っていた。専門知識が必要な水道事業は古参の役員に譲り、湯浅社長は贈答品卸売事業のみを引き継ぎ、1998年株式会社法人化した。しかし、時代は自宅葬から会館葬、そして家族葬へと変化し、会葬者用の注文も減少したことから葬祭業界でビジネスを継続していくことは厳しいと判断。熱



代表取締役 湯浅 幹之氏

企業概要

所在地	三重県桑名市大中央48-1 TEL:0594-27-2551 FAX:0594-22-2077
設立	1998年(平成10年)
資本金	1000万円
従業員数	259人(2018年6月現在)
事業内容	介護、福祉、介護マネジメント、日本茶および贈答品等の製造、販売
URL	http://www.triple-c.co.jp/index.html



あみーご倶楽部港

生と向き合ってきた20年でもある。「人が、より人らしく生きるための支援」を合言葉に事業を展開してきた。そのため、人らしさの最たる感覚である「楽しむ」ことを重視した施設運営に力を入れていく。介護施設では制限されがちな日常の買い物も自由にできる。家族や友人との外出の支援はもちろん、季節の変化を楽しめる様々なお出かけも企画している。



あみーご倶楽部大垣別邸

意を持って続けられる仕事を模索した結果、介護事業に参入。介護事業が軌道に乗ってきた2007年には株式会社センチュリークリエイティブに社名を変更した。

民営グループホーム 第1号

父親の会社を引き継ぐまで

大阪でコンサルティング会社に勤務し、介護とは無縁であった湯浅社長。介護事業に参入するきっかけは、大阪の商工会議所が主催する企業展で、自転車販売店が自社のフレーム製作技術を応用し住宅用の手すりの製作を紹介していたことだった。「これはおもしろい」と直感した湯浅社長は、商工会議所を通じて同社から話を聞く機会を得た。2000年に介護保険制度が施行されたこともあり、民間企業による介護事業への参入のチャンスだと考えたのだ。

「介護事業に興味を持つきっかけとなった自転車販売店の紹介で、可能な限り様々な研修、勉強の場に参加し、必死で勉強した」と当時を振り返る。その後、介護用品の販売やレンタルの事業を立ち上げた。

とはいえ、まだまだ介護事業については手探りの状態。その頃、父親が保有していたログハウスを介護施設として利用することを思いつく。立地や周辺環境が良いそのログハウスはまさに介護施設にぴったりであった。建物

の増改築を行った後、グループホーム「あみーご奈垣せせらぎ」(名張市)を開設。「当時はまだ県内にグループホームはほとんどなかった。行政機関すらグループホームへの理解は不十分だった」と社長は話す。これが伊賀名張地域で初の民間企業経営のグループホームとなった。

あみーごのネットワーク

同社は現在、14の介護施設を直営、さらにパートナーシップで運営している。直営として10施設の介護事業者と提携している。直営ではグループホームを中心に、住宅型有料老人ホーム、サービス付高齢者住宅、デイサービスの施設を運営。

2017年5月岐阜県大垣市にオープンした住宅型老人ホーム「あみーご倶楽部大垣別邸」は、和の質感なおもてなしに定評がある。特徴は入居者が日々楽しみにしている食事。施設では、栄養士考案の旬の食材を活かした献立はもちろん、地元の有名老舗料理店が監修したメ

バラエティに富んだイベントが同社の自慢でもある。毎年、大相撲の名古屋場所に合わせて施設内で夏祭りを開催。夏祭りに力士が登場すると、その日一番の盛り上がりを見せる。入居者の喜ぶ姿に運営側もパワーをもらうという。

目指すのは「強い会社」

湯浅社長に将来のビジョンをうかがうと「儲かる会社ではなく、強い会社を目指したい」という。「強い会社とは、会社が厳しい状況のときに、従業員自らでなんとか立て直せる力がある組織のこと」とその意味を話す。

利益のみを追求する経営では、必ず事業のどこかに歪みが出てくる。しかし、数字に無頓着であつて企業として経営を維持できず、結果として利用者にサービスを提供できなくなる。企業経営と社会福祉の2つの視点、そのバランスをとっていかねばならないのが介護事業の難しいところだ。

「当社の場合、経営者である私が経営をしっかりと行い、現場

のスタッフは介護の仕事に集中してもらおう。各施設長には経営の視点を持ちつつ施設運営を行ってもらっている。経営と現場の適度な綱引きが、良いスパイラルを生み出している」と語る。

一生懸命働くことの大切さ

センチュリークリエイティブは三つのCを大切にしている。「Century(世紀)」「Creative(創造)」「Contribution(貢献)」。今世紀を通じ、常に新しい商品、サービスを創造し、地域社会に貢献することを理念としている。

「我々の天命は様々なかたちで社会に貢献していくこと。介護事業に留まらず、どのような形においても社会的責任を果たせるよう常に一生懸命取り組んでいきたい」と社長は思いを話す。

最後に今後の経営を登山に例えて語った。「山を登っている途中は頂上が見えず、ただがむしゃらに登り続けるのみ。しかし、がむしゃらに登ることこそ未来を切り開くために必要で、やがて頂上が見えてくる。日々

ニュー、有名レストランとのコラボレーションメニューが評判を呼んでいる。建物は機能性と安全性はもちろんのこと、住む楽しさを感じさせる趣向を凝らしている。特に名古屋の寺院を手掛けた庭師による本格的な日本庭園は、四季折々に表情を変え、入居者の心を和ませている。

早くから地域に根付いた介護事業のバイオニア企業として信頼を積み重ねたことで、次第に同業者から相談を受けることが多くなった。そこで、PCS事業を立ち上げ、介護事業への参入や施設の開設を目指す企業に対し、プロフェッショナルとしてのサポートを開始した。「当社は、介護業界の右も左もわからない状態からここまで成長してきた。その実績こそが当社のノウハウの証しであるし、説得力があると考えている」と社長は自信を覗かせる。

人が、より人らしく生きるための支援

センチュリークリエイティブは今年で設立20年。それは人の人

刻々と変化する時代で生き残るには、人それぞれが与えられた中で力を出し切ることだと思いう。

さらなる高みを目指して登り続ける社長。同社はますます発展することだろう。

文〓会員事業部 奥田千夏



あみーご倶楽部四日市